



全国学力・学習状況調査からみえてきたもの(その1)

今年度4月、3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」として「教科に関する調査」(国・数)と「生徒質問紙調査」を実施しました。その集計結果からみられる本校生徒の特徴について報告します。(個人結果については1学期末に返却しました。学習状況やそれぞれの教科・領域の理解度についてご確認いただき、今後の学習や生活に活かしてください。)

【全国学力・学習状況調査「教科に関する調査」の結果について】

(1) 本校の平均正解率

- ・国語は、全国平均正答率と比較し「ほぼ同じ」という結果になりました。
- ・数学は、全国平均正答率と比較し「やや下回る」という結果になりました。

(2) 「教科に関する調査」から見られる本校の特徴

- ① 概ね全国平均正答率と傾向は変わらない。
- ② 無解答(解答していない空白状態)率が極めて低い。
- ③ 著しく正答率が高い・低い領域はない

○ 2教科の内、国語は全国平均とほぼ同じ結果となりました。また、数学は全国平均をやや下回る結果となりましたが、問題によっては全国の正答率を上回る設問もありました。また、2教科とも無解答(解答していない空白状態)率が、極めて低い傾向がみられました。このことは、「あきらめずに最後まで取り組むことができる」という本校の最大の強みであると思います。3年生には、粘り強く考えることの大切さを、これからも持ち続けるように働きかけ、1, 2年生には本校の良き伝統として引き継げるようにしていきたいと考えます。今後、各教科の授業で弱点に対する指導を行うとともに、生徒一人ひとりが思考する問題解決学習を重視していきます。また、全教科において、授業の「めあてと振り返り」をしっかりと行い、1人1台タブレットも有効に活用しながら学びを深めてまいります。

【国語科】

全体としてほとんどの項目で全国平均と比べて無解答率が低い傾向がみられ、意欲的に取り組む姿が見られました。

知識・技能面においては「我が国の言語文化に関する事項」において定着率が高い傾向がみられました。逆に「情報の扱い方に関する事項」については課題が残りました。基本的な学習事項の定着のため、繰り返しの学習や復習の徹底などを授業時間において改めて取り組んでいきたいと思ひます。

思考・判断・表現面においては「読むこと」において定着率が高い傾向がみられました。逆に「話すこと・聞くこと」「書くこと」については課題が残りました。場面や場合に応じて選択し表現する力や、表現の意図や工夫を捉える力が低い傾向がみられます。その対策として、授業の中で「場面や場合に応じて選択し表現する機会」や「表現の意図・工夫等を考える時間」を増やしていきたいと思ひます。また、問題の意図を理解できていないことがあるので、授業において「学習言語を増やせるように体系的に指導していくこと」や「問題自体を読み取る力をつけさせる指導」をしていきたいと思ひます。

生徒質問紙調査の国語科に関する質問からは、90パーセント以上の生徒が国語の勉強を大切だと考え、社会に出た時に役立てられるように学習に取り組んでいることがわかります。また、無解答率の状況からも意欲的に学習に取り組もうとしている姿が伺えるため、生徒の学習意欲を大切にしつつ達成感を持たせられるように、指導していきたいと思ひます。

(裏面に続く)

【数学科】

国語と同様に、全体としてほとんどの項目で全国平均と比べて無解答率が低い傾向がみられ、意欲的に取り組む姿が見られました。

知識・技能面においては、基本的な内容や言葉の意味を正しく理解できていないため、誤答につながっている傾向がみられました。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のどの領域においても例題で解き方を理解させ、反復練習を行い、小テストやICT等も活用して基礎学力の定着を徹底していきたいと思えます。

思考・判断・表現面においても全国平均をやや下回る結果となりました。しかし「数と式」や「関数」の領域において、理由や方法を説明する問題等については全国平均を上回る問題もありました。

1・2年生時に課題のあった「関数」「図形」の領域では、グループを用いた学習を多く取り入れた授業を行った結果、理解を深めることができた生徒が多くみられました。また、「記述式」の正答率が上がってきているのは、昨年度グループを用いてお互いに説明をしたり、毎時間の振り返りを書いたりしてきた成果であるといえます。しかし、文章問題では、長文の場合において特に、問題を正しく読み取ることができなかつたり、文章内にある言葉の意味が理解できなかつたりして、解答できていない生徒も多くみられました。また、「データの活用」の領域では、用語の理解が不十分であるため誤答が多いという傾向がみられました。それらの改善点として、授業において長文の要点を押さえて読み取る練習や複数のデータを分析できる能力の育成にも入れていきたいと思えます。

○今回の調査結果を真摯に受け止め、本校の強みはさらに伸ばし、弱みについては、本校の「研修委員会」を中心にPDCAサイクルを重視して、授業研究・授業改善に取り組んでいきたいと思えます。さらに、各授業の「めあて」「振り返り」を重視するとともにICTも積極的に活用しながら、生徒の学習意欲や学習理解がさらに深まるよう努力してまいります。

※全国学力・学習状況調査の「生徒質問紙調査」結果につきましては、「ささぶね（第8号）」にて、ご報告させていただきます。